

伊達方兄弟年記

貳拾七

和書門	
三二五六	號
一	函
九	架
九	冊

內閣文庫	
三三五七	號
九	冊
一	函
九	架

內閣文庫	
番號	和 32567
冊數	92 (27)
函號	153 133

現九十二内

共五十七



中流方糸年記

武松七

三二五六  
九二  
九二

庫	文	圖	内
一五二面	九二冊	三三五七	和書
一九架		九二冊	

和書  
九二冊

現九三〇

共五十七

山姥方善年記卷之二十七

享保己亥年目錄

一 御成先皇入仕山姥元日御成 二月十二日

御成先皇

一 川筋御成前日御成掛 同日

御成掛掛書

一 御成御成御成書 二月晦日

御成書

一 岩副御成御成書 二月朔日

拾遺出勅之事

一 淨土口授地口授九尾係勅之事 二月十日

一 涼地院換<sup>淨土</sup>淨土誕生之事 三月十日

一 淨土若<sup>淨土</sup>道之事 六月六日

一 小笠原信之配口授初為之事 六月五日

一 口授方<sup>淨土</sup>上覽淨土無之事 七月五日

一 朝鮮人<sup>淨土</sup>看口授方道書共之事 九月五日

一 朝鮮人<sup>淨土</sup>城之事 十月朔日

一 名改之故<sup>淨土</sup>有<sup>淨土</sup>書付出之事 十二月五日

享保己亥年

一 正月中諸法親式如例年相所

一 正月十六日

月光院極 淨土丸之事 入口後苗如例

一 正月廿八日

新道口授 淨土

所書

淨土能會書

右新道口授 淨土

但元禄十五年所書<sup>淨土</sup>人指之 作付之後是也

町奉行所之新<sup>淨土</sup>有<sup>淨土</sup>此<sup>淨土</sup>方<sup>淨土</sup>右能也

御免の旨に候事 仰付可申候事 所成能事  
御免の旨に候事 仰付可申候事 所成能事  
御免の旨に候事 仰付可申候事 所成能事  
御免の旨に候事 仰付可申候事 所成能事

一日

山内  
菅沼 忠書  
山内 徳助

石高守身取通口候 御免の旨に候事  
御免の旨に候事 仰付可申候事 所成能事  
御免の旨に候事 仰付可申候事 所成能事

二月十日

栗田 宗徳

佐々木 徳右衛門

栗田 市兵衛

新 親 源 兵衛

石高守身取通口候 御免の旨に候事  
御免の旨に候事 仰付可申候事 所成能事  
御免の旨に候事 仰付可申候事 所成能事

同日

菅人

一 口先辨成組の内 菅組向迄 菅先辨成組  
御免の旨に候事 仰付可申候事 所成能事  
御免の旨に候事 仰付可申候事 所成能事

拂口依一取奉

一 列紙海系 沖船取紙法依之仕形之堅固飾  
之根海系川行方之川之義不取道也其  
下奉

一 沖馬之取陸之口依之取奉 沖船神道  
口依取之取道之口依之取奉之取先  
沖船之取者之日義 沖船取道之取道也  
有之取之取取取取取取取取取取取  
下奉

二月

右書身一取之日取之取取取取取取取  
大之保取海之取取取取取取取

一 沖船取取取取取取取取取取取取取  
列取十日取取取取取取取取取取取  
取取取取取取取取取取取取取取取  
取取取取取取取取取取取取取取取  
取取取取取取取取取取取取取取取  
取取取取取取取取取取取取取取取  
取取取取取取取取取取取取取取取  
取取取取取取取取取取取取取取取

一 若堅門南之取奉 沖船取取取取取取取  
取取取取取取取取取取取取取取取

本心坊了古初名是又河渡与殿后居者以上  
石心院日曆記有之

二月十日

已申刻上谷池之端御り出火有入名元七人皆  
火消之 仰有清奉書出口使指九番總元

前

二月十九日

松平忠房書 松平大炊頭 松平藤高書  
柳原成徳捕 戸田宗重心 松平遠江書  
久松保明書 小栗宗直書 吉山同情書

鳥指丹波書 加茂和泉書 松浦肥前書

谷 出將書

右心當秋朝鮮人未報之長市通人馬  
心池乞之御了古初名於法口古書院法經觀心  
別在丹上河内之殿之江渡

寄合

高城之在馬

近及之流師

右心當秋朝鮮人未報之長市通人馬  
了古初名於法口古書院法經觀心  
別在丹上河内之殿  
江渡

二月十日

石原通江渡 沖免

伊多々吉原組組長  
猪俣源多信

目入組長  
番田源多信

江原吉原組長  
高田次八郎

水田源多信  
吉原吉原組長

飯河吉原組長  
吉原又八郎

伊多々吉原組長  
猪俣源多信

牧野新平組長  
相田友郎

石原 伊多々吉原通江渡

二月十日 同日 伊多々吉原通江渡 石原通江渡 同日 伊多々吉原通江渡

石原

明日 伊多々吉原通江渡

二月十日

一 先達吉原組長 伊多々吉原通江渡  
二 伊多々吉原通江渡 石原通江渡  
三 伊多々吉原通江渡 石原通江渡  
四 伊多々吉原通江渡 石原通江渡  
五 伊多々吉原通江渡 石原通江渡

二月十日

明日 伊多々吉原通江渡

林 吉原通江渡 伊多々吉原通江渡



葉田之馬 永田延之馬 中山主水  
建部甚馬 台田小右馬

右之通 又遣公且又來也七日之新當書外

明日之殘是組が少く人少く死時蔵候引

多明今之時に格稿迄之格稿は和編

右之候は昔而日帳記

一 二月廿一日 大久保徳海殿に成り候事

口候

昨日の口候は之より明日の口候より

清城の口候

二月廿一日

一 口候は之候明日の口候より組は先少く候

出之候は口候組は先少く候

右之候は昔新日帳記

一 二月廿一日 口帳記之に當り書候不見

一 二月廿一日

明日廿七日 清城の口候より後志書所

若手格候候者に在り明日廿六日口候

少一人候 清城の口候より大久保徳海殿

口候候は申口候に候候者に在り

何れ程の事か例明り初進口出成  
り成り之水度注る所及る為事合  
て成り之れは拙い後成り之れは

石巻口番所日記記

一二月廿六日

去る年之節之治口用々 作付

一二月廿九日

浄土院極上之口迄之者 入牧所新年組  
浄土勤古當者接合明古時中橋口内所

古勤

一二月廿日

浄土院極上之口迄之者 入牧所新年組

浄土勤古當者接合明古時中橋口内所

浄土院極上之口迄之者 入牧所新年組

浄土勤古當者接合明古時中橋口内所

浄土院極上之口迄之者 入牧所新年組

浄土勤古當者接合明古時中橋口内所

浄土院極上之口迄之者 入牧所新年組

一二月朔日

若洲船所之河口往來之難事是也

成内判

送河

以候者

河内者

全田惣八郎組

水田江左衛門組

河内判

吉田若馬組

中山三右衛門組

河内判

朝長善貞組

河内判

林 友三郎組

惣子

牧野新平組在部新平部

加多子五郎組

松波善三郎組

在部新平部

明組

荻原新三郎組

吉田新平組在部新平部

在部新平部

吉田三右衛門組

津田三右衛門組

佐河三右衛門組在部新平部

建部善右衛門組

右の條將織役引合出候者

一 經之儀近令寺とて在河内者且又經持上人

一人とてお由り月分元等

一 法住者口是者は組元近令寺に口在者

口者口元月分元等お由り候



石巻組の役目書よりお勤りな中江口組  
知事書組の安否を懸念し海防組に  
石巻組の役目書よりお勤りな中江口組

一 二月十日

津瓦津御相上り口元口元自月お係り  
多々口元お係り口元口元口元口元  
先口元口元 津口元口元口元口元  
之通口元口元口元口元口元口元  
一 二月

石巻身石門進口元口元口元口元

口元

津口元口元口元口元口元  
口元口元口元口元

一 二月十日

口元口元口元口元  
口元口元口元口元  
口元口元口元口元

朽木十之信

口元口元口元口元  
口元口元口元口元

石巻 口元

同日

上至平之節

右京治以順洋領相例年之通

同日

不財之禮有之紀伊殿以順之紅出之

沙禮元之内

新田地之礼

新田地之礼

上取之礼

綿百地

才分初之礼

上松殿之禮

右京礼書海

一二月十九日

給 淨市丸 淨田子採淨使生

同日淨程後惠出信之

一三月五日

淨之信之淨後有之酒信之家信礼案著

諸書以信相以之申市夜以之信及人宅

横淨程後之信著之市夜以之信合為著

斗以信家候淨酒著

淨出之採淨者

源之採信者 附以由信 信出之

一二月十九日

紅毛山 淨宮在申刻 淨社在巳刻  
還淨

是十七日(延元)淨儀未(之)也

一 六月六日

院  
建於甚有(之)也

三合(之)

小出(之)節(之)蓮

一 多(之)于(之)石(之)宿(之)所(之)之(之)田(之)寺(之)町

石(之) 仁(之) 寺(之)

同日

源(之) 祿(之) 一(之) 日(之) 淨(之) 不(之) 時(之) 亦(之) 多(之) 淨(之) 儀(之) 結(之) 今(之) 日(之)  
淨(之) 遊(之) 寺(之) 多(之) 於(之) 申(之) 方(之) 口(之) 氣(之) 中(之) 以(之) 刻(之) 在(之) 水(之) 野(之)

和(之) 水(之) 殿(之) 之(之) 位(之) 後(之)

右(之) 身(之) 唱(之) 物(之) 今(之) 日(之) 二(之) 日(之) 信(之) 止(之) 善(之) 儀(之) 亦(之) 不(之) 善(之) 也(之)

以(之) 月(之) 拜(之) 禮(之) 本(之) 淨(之) 儀(之) 儀(之) 之(之) 建(之) 之(之) 組(之) 之(之) 儀(之) 亦(之) 福(之) 也(之)

由(之) 信(之) 者(之) 水(之) 田(之) 延(之) 及(之) 島(之) 中(之) 若(之) 組(之) 以(之) 後(之)

一 六月七日

為(之) 淨(之) 儀(之) 始(之) 也(之) 也(之) 仕(之) 有(之)

其(之) 日(之) 右(之) 身(之) 仕(之) 付(之) 此(之) 儀(之) 出(之) 而(之) 衣(之) 袂(之) 之(之) 者(之) 祿(之) 以(之) 此(之) 儀(之) 方(之)

書(之) 多(之) 也(之) 也(之) 殿(之) 中(之) 若(之) 儀(之) 之(之) 類(之) 若(之) 今(之) 日(之) 儀(之) 之(之) 由(之) 此(之) 儀(之)

儀(之) 亦(之) 小(之) 出(之) 此(之) 節(之) 組(之) 出(之) 初(之) 儀(之) 記(之) 也(之) 也(之) 亦(之) 日(之) 所(之) 也(之)

何(之) 之(之) 記(之) 也(之)

同日 石上書房石門進口殿御借書者杉本高直馬場

口院  
御  
人

石源孫 清出権 沙紙 子孫 御前

子孫 御前

一 五月八日

源之孫 清出権 上野法皇院 御前

入石上口院之組 子孫 御前 石門進 口院

口書房 石上院 御前

清法

林 後 御前

又 攝 夫人 山園 御前

石源惟子 上 下 夕 七 時 平 川 口 外 抄

口院 進

一 平 川 口 一 昌 年 攝 一 仁 皇 門 前 攝 孫

以上之 口院 進

石上書房 口院 御前 福生 御前 馬 口院 進

源之孫 清出権 御前

一 清出権 口院 御前 内 少 清出権 御前 攝 孫

一 批 行 大 石 上 院 御前 口院 御前 右 二 口院 御前 攝 孫

口院 御前 攝 孫 御前 攝 孫

但 大 石 上 院 御前 攝 孫 御前 攝 孫





何河堂書局組

大岩流書局

後院部号叶

右新通後 津先小書局

同日

村山新通後組

村山新通後組

中谷久通後組

村山新通後組

大岩流書局

湯淺流書局

同人組

西郷右衛門

右

右場井万右衛門志元口院寺以増井市右衛門清月小書局  
村山三郎志元口院組二男、口院半次小所組、八人  
成市助共見村山之右也、  
清月新書局、知事遠近、  
改組、  
組、  
湯淺流書局、  
後院部号叶

一月十日



有之ニテ其ノ言ハ何目付也 作付ノ後ヨリヨリ心  
未キ下内ハ何組以テ 作付ノ心

口元目組ハ口元ハ元文ノ之例ヤ不レ其口元冬  
右ノ言ハ 欲スルノ旨記ス

一 八月十日

尚秋朝鮮人來朝ノ旨歸國ノ旨道中人馬

書付ル旨付ル旨

一 八月廿七日

今日付書付ル旨外 布告ノ旨合該役人於  
美共答ル旨口元中ハ別旨若年公元付付ル旨

美江渡口書付

是

一 前ノ旨ハ 作付ノ旨付付ル旨

一 前ノ旨ハ 作付ノ旨付付ル旨

一 前ノ旨ハ 作付ノ旨付付ル旨

一 前ノ旨ハ 作付ノ旨付付ル旨

一 前ノ旨ハ 作付ノ旨付付ル旨

一 前ノ旨ハ 作付ノ旨付付ル旨

石ノ旨ハ 作付ノ旨付付ル旨

一 前ノ旨ハ 作付ノ旨付付ル旨

五月

右邊海軍少佐候より奉りて義子進上り給  
擧進口より奉りて御座候

一 五月十八日

月次出仕方より奉りて清風堂より御座候  
御月見之旨に於て申上り候

同日

上至相親与

同 左京亮

右新通源指上 仁村家智守御座候

厚同席候 仁村方於美蓉方口是申上り候  
和泉守殿に候

松浦氏御座候

右方 右利花澤と候に候 御見立候  
右邊源指上候に候 御座候  
下上より 右方於清白書院に御座候  
御座候 和泉守殿に候

一 六月朔日

月次御座候

同日



一六月十日

山王宮札を以て申列の上は

成心申列 還御

山王宮札

新加通所

松波

本多

江東

神樂押

牛橋

中山

吉田

上段新  
左段柱

藤田

明正

細教

吉田

明正

石向

同日

一六月十日

石向

碑文

明正

部合

組員少人其係名額大に減り致す作爲に  
係りし組員少人其係名額大に減り致す作爲に  
當月以後若くは前及後自及に組員少人其  
扱は組員少人其係名額大に減り致す作爲に  
少く附公池に遊下り水釣り給へり是れ想ひ終  
て量能水遊下り水釣り給へり是れ想ひ終  
殿引りて少く附公池に遊下り水釣り給へり

同日

雨多別之河河に月方出火の坊火留不名籍人  
少 作付法奉書出使和番何官者組

口伝勤

一 六月十七日

碑文首村白多附池右跡子勤方口伝勢古  
右跡子勤方口伝勢古

右勢古口伝勢古

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 栗田吉兵衛組 | 山平左衛門  | 長門守組   |
| 水野吉兵衛  | 園吉兵衛   | 山中平兵衛  |
| 栗田吉兵衛  | 山中平兵衛  | 阿久保吉兵衛 |
| 林吉兵衛組  | 荏原吉兵衛組 | 徳吉兵衛組  |
| 杉本吉兵衛  | 子原吉兵衛  | 大岩吉兵衛  |
| 吉田源八郎  | 二本吉兵衛  | 中尾吉兵衛  |



升戸九八節	和山五右衛門	多志五右衛門
森治五右衛門	和山五右衛門	大橋五右衛門
阿部市十節	石尾隆五節	小糸五右衛門
丹田五右衛門	谷田五右衛門	西山五右衛門
小糸五右衛門	石山五右衛門	吉橋五右衛門
今村五右衛門	谷田五右衛門	系五右衛門
生田五右衛門	松井五右衛門	長谷五右衛門
龍口五右衛門		
三友五右衛門		

旅合之権八人

石目道之組頭

山田五右衛門  
水野五右衛門

一 六月廿二日

此物秋御解人馬朝有人馬候申書付先道而  
出書付候

一 六月廿七日

碑文首村古白子候子再統名有之五十七日  
出書人教出之組以候右之長出書之人出書如何候







延喜三十二年三月と限るるに多き友ありしに  
すべし

延喜三十二年七月

同日信若申多しを御遊早仕在通

早仕遊の後に人の保は酒を飲ばし、酒は酒を

碑文官地より信託白き御子福多古くは

改く我際在り右瑞の正誠極子固くは

幸く後有人別岩也及は信上通口也

是如人々恒に瑞際をのるる誠極子

一後有人信後公拙くは移りし言は御子

一秘言古信日とて口口とて一人一度我能言江を

松下信ス我傳多し御子は固くは信は及也

一古信の誠極極多し信は及也作は以上

右信託書所見懐之記

一七月六日

秘言仙師在書月以信託先言及誠極極書

と信年一御信多し

明後八日碑文官地新言白き遊之能言

是如人々恒に瑞際をのるる誠極極子

一後有人信後公拙くは移りし言は御子

七月十四日

松下与助

右様吉之候古御多由申付御座候事  
申渡候事申渡候事  
申渡候事申渡候事  
申渡候事申渡候事

一 七月十四日

紅葉山五所 御座候事 御座候事

同日結着杉木之御座候事 早御座候事

一 明子宿杉木之御座候事 御座候事

御座候事 御座候事 御座候事

一 池ノ白鳥野子御座候事 御座候事

水見下之御座候事 御座候事

申上候事 御座候事 御座候事

一 御座候事 御座候事 御座候事

右様御座候事 御座候事

御座候事 御座候事 御座候事

一 七月十日

今日御座候事 御座候事 御座候事

御座候事 御座候事

右様御座候事 御座候事

一 七月十七日











右田山右馬組

櫻井左馬

赤山平吉

山尾嘉吉

山尾信吉

中村右馬

今村右馬

生田信吉

滝口清吉

滝山次吉

水田山右馬組

杉本新七郎

石尾信吉

山田政吉

長田山右馬組

山田新吉

城新吉

生田信吉

杉井左馬

滝山次吉

牧野新吉

大橋新吉

小橋新吉

赤山平吉

山田山右馬組

長尾新吉

小山忠吉

荒川新吉

長沼新吉

長田新吉

杉本新吉

後宗新吉

竹尾新吉

坂合信九郎

石山信

津田信

津田信

新井信

一 七月廿七日

口尻信

大之保以海之故之紅波和着之屋平之節より  
早之節吉田半其の中多之節朝長朝貞  
崔朝朝之節之節之節之節之節之節之節之節  
坊海之故之節之節之節之節之節之節之節之節

惟子之節之節 以之節者 五指七人

昭日水海之節 作之節之節之節

七月廿七日

右之礼也之節之節之節之節之節之節之節之節  
水海之節之節之節之節之節之節之節之節  
中朝之節之節之節之節之節之節之節之節

明日之節之節之節之節之節之節之節之節  
宛和着之節之節之節之節之節之節之節之節

右之節之節之節之節之節之節之節之節  
次之節之節之節之節之節之節之節之節

昨日之節之節之節之節之節之節之節之節

同日 右之節之節之節之節之節之節之節之節

之節之節之節之節之節之節之節之節  
之節之節之節之節之節之節之節之節  
之節之節之節之節之節之節之節之節  
之節之節之節之節之節之節之節之節  
之節之節之節之節之節之節之節之節

右様之候も、先度迄は、御座候事、  
仕出申上之由、申上候事、御座候事、

右様之候も、御座候事、

三月七月

右様書付申上候事、  
申上候事、御座候事、

一 八月朔日

月次之口札申上候事

同日、右様書付申上候事、  
御座候事、

右様書付申上候事、  
御座候事、

見立候事、

組立候事、

右様書付申上候事、

右様書付申上候事、

右様書付申上候事、

一 八月朔日

右様書付申上候事、

右様書付申上候事、

口札

二人

明旨に付 沖城に在るに有るに  
右信若外に在るに在るに信若外  
海軍中次前右長官に聞か

一 八月三日

昨日大久保信海軍少将に付今日月若外  
新卒外、長官前右長官に在るに在るに  
大久保信海軍少将に付今日月若外

但月若外中山に在るに在るに在るに  
出席に在るに在るに在るに在るに  
在るに在るに在るに在るに

一 是

一 沖城に在るに在るに在るに在るに  
在るに在るに在るに在るに在るに  
在るに在るに在るに在るに在るに

但右通に在るに在るに在るに在るに  
在るに在るに在るに在るに在るに

一 沖城に在るに在るに在るに在るに  
在るに在るに在るに在るに在るに  
在るに在るに在るに在るに在るに  
在るに在るに在るに在るに在るに  
在るに在るに在るに在るに在るに









貸し書に依りて之を以て事

一 所記の如く句條に依りて同公抄に在る  
前記の借書に者格別之を右記に依り  
て之を左記の條に記し配に於て是等  
借書に以て事

一 此等之を以て者尚ほ其借書に  
記し定むに依りて其書に右記に  
外に借書に依りて之を以て事

右記の通り之を以て借書に依りて  
其書に依りて之を以て事

八月

一 九月朔日

日光 淨神服立本六卷之書に  
其人太く保長門守殿に依りて  
其書に依りて之を以て事

右記の書に依りて之を以て事

一 九月之日

此等之配に依りて之を以て事  
紙張に依りて之を以て事  
之を以て事

少之系年之通年之  
右之信之書之口之帳之記之

一 九月十四日

明日日光之使相也新平組之宅前助  
中谷助八郎之為新平組之長久保甚口之殿  
口書之之紙之口之信之文之傳之馬之口之信之文之奉之  
甚口之殿新平之口之信之文之

一 九月五日

日光之口之信之文之  
神田之口之信之文之  
新平之口之信之文之

日光之口之信之文之  
城之口之信之文之

信之文之

同日

明日尾之村之口之信之文之  
新平之口之信之文之  
尾之村之口之信之文之  
口之信之文之

一 九月七日  
新平組之口之信之文之  
口之信之文之

中渡の事なるは

一 九月十日

少将重三組

上徳之山海堂

水戸中將殿

右様國殿一田清忠之有進之為礼之刻  
也 城跡清白書院の老申の進之也

一 九月十七日

明日八日護持院跡の橋外明地より田事の内  
明地なる 成り有

一 久保河渡之殿江渡屋護持院跡の橋  
明地なる 成り長向後一の橋外は再組

再組なるは組之清行有之組なるは  
成りなるは不討の城也再成り有

成りなるは口外有之組なるは清先再組なる  
拂之なるは又護持院跡一の橋外明地也

成りなるは又護持院跡一の橋外明地也  
成りなるは又護持院跡一の橋外明地也

成り有

一 護持院跡一の橋外なる人新組なるは  
是又口外再組の由人新組なるは  
成りなるは又護持院跡一の橋外

一 田舎の月夜月夜水野日向星夜合書  
口説き法信若組の月口月夜合書人等  
久日向星夜合書。月夜合書人等合書  
と云ふ又云作後  
一 田舎の月外口説き合書。白雲夜合書  
と云ふ

一 九月十八日

護持院疎明地。甲申別書。咸平甲申別  
書。通。還河口信高心信或組口信排或組  
將或後門と云ふ節

但法信と平川口信排と云ふ組と一橋外排  
と云ふ組と平川口信排

一 九月廿七日

但河合書  
咸平甲申

右組の通法信口信と云ふ排口若合書口信  
類と云ふ排口若合書口信作後

一 九月廿七日

朝鮮人江戸口信若合書信若合書口信若合書  
但法信と平川口信排と云ふ組と一橋外排

末稿より新卒と云ふは五組と云ふ如右  
ありぬ織立舟同公の織服引...  
口伝方より道出候旨に付傳書に新解人  
通すに及ぬ口伝方道出候旨に及ぬ  
お止  
右の如く候申候に付口伝方書方記有し

一 九月廿八日

大久保河津左殿に付候旨  
津城より津左殿に付相傳ふ大久保元左殿に  
候旨に及ぬ二之新裁口伝入書に付右に通

表候旨に及ぬ口伝方新裁に及ぬ口伝入  
り候旨に及ぬ長生に及ぬ口伝入  
之口伝方新裁に及ぬ口伝入  
一 口伝入書に及ぬ口伝入書に及ぬ口伝入  
入書に及ぬ口伝入書に及ぬ口伝入  
中候旨に及ぬ口伝入書に及ぬ口伝入  
口伝入書に及ぬ口伝入書に及ぬ口伝入  
之口伝入書に及ぬ口伝入書に及ぬ口伝入  
口伝入書に及ぬ口伝入書に及ぬ口伝入  
一 口伝入書に及ぬ口伝入書に及ぬ口伝入



西之市名用之了未解

九月廿九日

一 九月晦

朝鮮人跡之物細以有之甚及口饒之組  
者後与是九月十日所物

右献上物在通

- 一人参 五拾斤 一大繻子 拾丈
- 一大繻子 拾丈 一白綿綢 五拾丈
- 一黄照布 三拾丈 一虎皮 拾五丈
- 一彩虎布 五拾張 一马脊皮 三拾張

- 一魚皮 百張 一多紙 三拾卷
- 一馬筆 五拾柄 一真墨 五拾斛
- 一黄蜜 百觔 一清蜜 拾觔
- 一豹皮 五拾張 一鹿角 五拾連
- 一鞍馬 丈

右朝鮮國王進物

- 一人参 拾斤 一唐皮 五枚
- 一白虎布 拾丈
- 右之使方献上

同日 冒骨上向新加坡之為見之口書付



朝鮮人送禮  
出仕多し  
城多し

九月晦日

一十月朔日

朝鮮人年上刺也  
未中刺退教  
殿中衣冠布衣系袍

柳同通

全田

河内

永田

谷

朝

右

一十月二日

想  
口  
布

右之由來其日胡解人由馬

上隨之由來其日胡解人由馬

看之先也 故之之之之之之之之之之之之

其職之由來其日胡解人由馬

見其由來其日胡解人由馬

其由來其日胡解人由馬

右之由來其日胡解人由馬

十月二日

一十月五日

於其由來其日胡解人由馬

上隨 冲市並組吹人指人按合之指人按指

少神宗之由來其日胡解人由馬

但之由來其日胡解人由馬

上隨之由來其日胡解人由馬

作其由來其日胡解人由馬

何日之由來其日胡解人由馬

曲馬名目

立一さん 左七分有る

祝之由 横之由

双馬 馬上月輪 馬上偃月日

馬鹿者

善相周  
祝重雲

一十月九日

涉信公 巨致書及  
送意公 作書

大正書  
初武部山掃部之段  
大福の以て書  
松平忠義書  
明

吉原傳

口信公 巨致  
初武部山掃部  
大福の以て書  
作書

南條山十郎  
長田傳十郎  
神谷又右衛門

右通旅公保江海少段口宅若年若丸

之儀海之口信公所日帳回十日市右之通  
此九日之儀海之記之儀

唯今述之常人遠意之儀之儀者遠  
意未何意之儀之儀之儀之儀  
取之儀之儀之儀之儀之儀之儀  
多之儀之儀之儀之儀之儀之儀  
何之儀之儀之儀之儀之儀之儀

追取人之口若也及意解之儀之儀之儀  
使身之儀之儀之儀之儀之儀之儀  
口信書信之儀之儀之儀之儀之儀



一 大阜

或拂

一 屋瓦

或于奴

一 轉橙

或拾口

一 物後深物

一 可喝

一 茶字礼汚

或白反

正使の招音致綿之百抱

副使の右目以

役事官の右目以

上之官之人の招音致

判事之人の招音致

学士之人の招音致

上之官の音中の招音致

中官の音中の招音致

馬病者或人の招音致

馬官人の招音致

同日 左の書の上田新の節の同

山屋の音中の招音致は後唯の通の如く不知

言の別一統並音中の出の如くは右の如く

有るもの如くは右の如くは通の通の如く

随ふもの如くは右の如くは格の如く

又その如くは右の如くは格の如くは格の如く

別の方の如くは右の如くは格の如く

了付

右領之儀自今所下年々々々通々後方  
九月中之紙出の今年之十月中之紙出  
心  
十月

一十月十日

市口包紙紙令于貴  
紙五百枚  
紙拾之拾

口帳  
上領并河内

宗對馬

法皇書院

宮内省

同人

今之紙  
紙拾

法皇御方

紙百枚  
紙拾

口帳

法皇老

田所

高長老

宗對馬

松村高長老

松村采女

平田采女

大浦忠長老

紙拾  
紙拾之紙

右者羽解合親式等本海内身等々々  
橋ノ回并上河内等紙拾

一十月十日







地代亦為出使多後亦不仕書也

一十月廿八日

朝鮮人旅館等以地乞口用亦助大石元  
九人の礼有之

同日

朝鮮人旅館元口禮亦有之

一十月廿日

書組在初其前明組也  
早瀬重正  
栗田右兵衛組也  
佐野中右衛門  
牧野新三郎組也  
小糸重三郎

石高守付頼之通後後 御免

並通官等事  
藤原守前組也  
早瀬重正也  
水野守也  
石田守也組也  
小糸重三郎也  
田代守也

右名 作付之

右田代守前守也其後後人持持也  
室永一少人並五元海番  
小糸重三郎守也保十一年正月西九少人組也  
坊地守前少人組也 作付

一十月十日 左之書付也



一十二月十日

口伝以  
何事

東川下後

白丹玄

口伝科之百依着て持る九百名

右名 何事て外日何事て人略

一十二月十日

明末百戸口傳之清獲野之有口傳之  
之口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之  
口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之  
口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之  
口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之

一十二月十日 口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之

右名 何事て外日何事て人略  
口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之  
口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之  
口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之  
口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之

一十二月

一十二月十日 口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之

口傳之

一今夜川船回人其後極中其後極中其後極中  
口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之口傳之

改之極極不之矣之但江戶船之存心  
 同六月迄去之者之船之來年中之海江  
 運送之序次先船所船之川船船  
 亦運送之序次先船所船之川船船  
 後おれは船多しといふは船之極不  
 う之は是之江戶運送之序次先船所船  
 番細書舟の科船科之川船船  
 出之序次先船所船之川船船  
 一 或之船之序次先船所船之川船船  
 極不之序次先船所船之川船船

川船船之序次先船所船之川船船

以上

三月十二月

書寫

十八番組

山尾忠清

校正

岡野 鼎

